

王墓山古墳(倉敷市)

正面前方丘陵の木々の中に王墓山古墳が所在する

[video](#)



王墓の丘史跡公園の王墓山地区は、北端にある王墓山古墳(右手の丘陵上)を主として四つの古墳群からなっており、この地区には現在25基の古墳が残されていると云う



グラウンドから丘陵上への階段を昇ると、王墓山古墳の墳丘が見えて来る

 video



その墳頂に上って見たところ/東方向を見たところ



そこで、北方向を見たところ



同じく、西方向を見たところ



これは東側で墳丘を見下ろしたところ

[video](#)



南側で墳丘下を見ると、標柱や覆屋が見える

 video



墳丘を下りて覆屋を見ると、石棺が安置されていた/その向こうに説明板も立っている



これが標柱と説明板



かすれて良く読めない/明治以降の乱掘によって石室は失われ墳丘は変形しているが、石室は横穴式だったと思われ、墳形は25mほどの円墳または方墳と考えられている/6世紀後半の築造とされる/四仏四獣鏡をはじめ金銅製馬具・鉄製武具・装身具類・須恵器など多種多量の副葬品が出土している

県指定史跡

王墓山古墳

昭和三四年三月二十七日指定

古墳時代後期（六世紀後半頃）につくられた古墳である。かつての開墾や宅地造成などにより墳丘はかなり変形を受けているが、もともとは二五m程度の規模をもつ円墳ないしは方墳と考えられる。

内部主体には横穴式石室を有していたが、石室は明治末頃に石材として切り出されたといわれ、今は見ることができない。墳丘南東側に安置されている石棺は、この時に多量の副葬品とともに石室内から持ち出されたものである。

石棺は七枚の石を組み合わせた家形石棺で、石材には井原市浪形に産する貝殻石灰岩を用いている。同種の石棺を有する古墳は、総社市こもり塚古墳など数例しか知られておらず、しかも有力な古墳に限られている。

出土遺物には、四仏四獣鏡をはじめ金銅装馬具・鉄製武具・装身具類・須恵器など多種多量の副葬品が知られており、それらは現在東京国立博物館に収蔵されている。

これらの豊富な副葬品や家形石棺の存在などから、王墓山古墳は、この地方においてかなり傑出した存在であったことがうかがえる。

文化財を大切にしましょう

倉敷市教育委員会

右手は「王墓山周辺古墳之精霊供養塔」



石棺は7枚の石を組み合わせた家形石棺で、石材には井原市浪形に産する貝殻石灰岩を用いている

[video](#)



縄掛け突起も見て取れる



これは南東側から墳丘を見たところ

 [video](#)



これは東下から見上げたところ



墳丘

参考ホームページ

<https://www.city.kurashiki.okayama.jp/5510.htm>

<https://kofun.info/kofun/1562>

<https://tabioka.com/obosan-district/>

<http://kamochi52.blog.fc2.com/blog-entry-41.html>

